

【9/9赤いか速報】ソデイカ漁期前試験操業の結果(1ページ)

令和7年 9月9日（火）に鳥取県漁協賀露支所の第三春日丸、栄進丸に御協力いただき、ソデイカの試験操業を賀露沖 東経134°09′の灘・沖で行いました。

○操業時間 3.5時間（樽の設置開始時間5:40～樽の回収終了時間9:20）

○樽の状況 1隻につき樽30個設置し、ミシオにより樽は西→東へ流れた

○灘側釣果 0個体（水深220～230m）

○沖側釣果 0個体（水深240～270m）

●漁況予測

- ・漁獲量は40トンと予測され、平年（61トン）を下回る見込み
（予測の詳細は2ページ）

【その他のソデイカ情報】

○沖縄県の情報

今漁期（12月～5月）の累積漁獲量は1,475トンで、前年比57%と低調な漁況であった。

○兵庫県の情報

但馬水産技術センターHP「漁況情報：沿岸いか釣り漁場探索調査の結果」

※沿岸いか釣り（ソデイカ）漁場探索試験（これまでのところ、釣れていない）

調査日	釣獲個体数	調査連数	外套長（cm）	水深（m）
8月24日	0	1	-	140～220
8月26日	0	4	-	150～245
8月31日	0	1	-	140-210
9月4日・5日	0	2	-	130-180

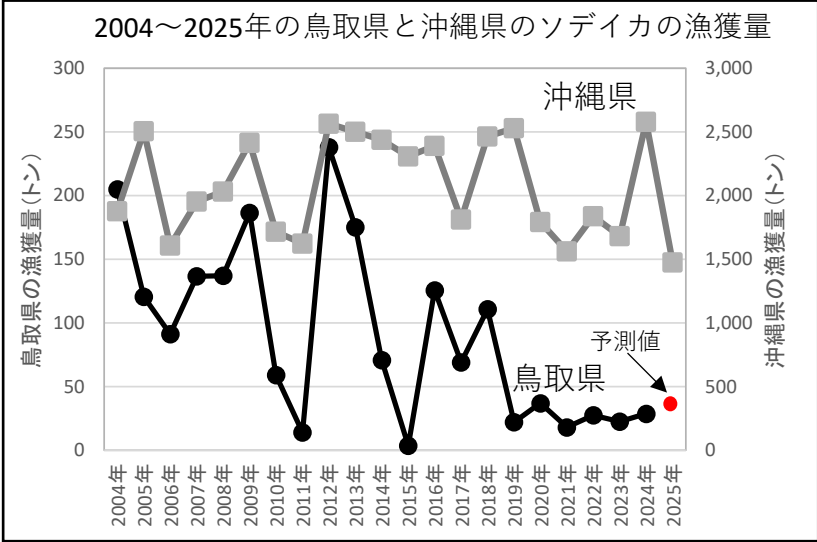
【9/9赤いか速報】ソデイカ漁期前試験操業の結果(2ページ)

■鳥取県のソデイカの漁獲の推移

2004～2012年：高水準で推移し、2012年にピーク（238トン）
2013～2015年：急激に下降、2015年に最小値（4トン）
2016～2024年：低水準で安定、この間の平均は約61トン
2024年：28トン

■鳥取の2025年予測値

- ・ 下記の予測式により**40トン**と予測された。
- ・ 試験操業で漁獲できなかったことから、
来遊量が少ない又は遅れていることが予想され、
**実際の漁獲量は予測値より下振れする
可能性が高い。**



■予測式（2016年以降の①～④のデータを使用した重回帰式）

予測式 = a × ①冷水指標 + b × ②表面水温 + c × ③100m水温 + d × ④沖縄県漁獲量 + 定数

項 目	2025年の値	説 明
①山陰若狭沖冷水の勢力 (高い値ほど冷水接岸→沿岸に漁場が形成)	-0.4	冷水の接岸は弱く漁場形成は不利な状況にあり、 予測値を下げる要因になっている
②鳥取沖の8月表面水温偏差 (高い値ほど対馬暖流の勢力が強く、 イカが日本海に多く運ばれる)	1.9	水温が高く、予測値を上げる要因になっている
③鳥取沖の8月100m深水温偏差 (高い値ほど対馬暖流の勢力が強く、 イカが日本海に多く運ばれる)	-0.9	水温がやや低く、予測値を下げる要因になっている
④沖縄県のソデイカ漁獲量 (資源の多さを表す)	1,475	沖縄では過去最低の不漁であり、 予測値を下げる要因になっている